■令和５年11月７日　定例記者会見内容

１　日　時　　令和５年11月７日（火）11：00～11：45

２　場　所　　市役所本庁舎７階　703会議室

３　出席者　　〇市長、副市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、市民部長、市長公室長

〇酒田記者クラブ９社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、毎日新聞、朝日新聞、ＮＨＫ、ＴＵＹ、ＳＡＹ）

〇コミュニティ新聞（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

１　本市と鶴岡市との広域連携による事業承継支援について

市長／酒田市と鶴岡市と連携して、事業承継支援に取り組みますということです。事業承継につきましては、大変重要な事柄であると考えております。

人口が減っていく中でも、経済を小さくしないように守りそして広げて、市民が働く場を守り、そして拡大していくために事業承継は大変重要です。

酒田市では、これまで産業振興まちづくりセンター「サンロク」におきまして、「創業・事業承継支援員」を配置し、市内事業者の事業承継を支援してまいりましたけれども、さらに成果を上げるために、経済圏として一体化しております鶴岡市と連携し、広域での事業承継支援これを県内で初めて取り組みます。

具体的な取り組み内容につきましては、資料にある通りですが、1つ目といたしまして、本市と鶴岡市の約5,500の事業所を対象としたアンケート調査を実施し、事業承継の意向、それからニーズなど実態を把握いたします。

2つ目といたしまして、後継者候補のコミュニティづくり。それから、事業承継の経験談のシェアを目的としたセミナーなどを開催いたします。

3つ目と4つ目は、同じ種類の内容ですが、連携機関の情報やアンケート調査で把握した「事業を譲り渡したい者」それから、「事業を譲り受けたい者」こちらは地域の内外いらっしゃいますけれども、オープンネームでマッチングするイベントを開催いたします。

この広域での事業承継支援の取り組みは、独立行政法人中小企業基盤整備機構の「令和5年度自治体関与型中小企業事業承継支援モデルの構築・展開事業」に採択され、その費用補助を活用して実施するものです。

記者／この事業の予算規模を教えていただきたいです。

市長／予算規模は、モデル事業採択の費用補助の額ということで、限度額110万円ということであります。

記者／今回の広域連携で、市が最も効果として期待する点をお伺いしたいと思います。2点ありまして1点が、配布資料、具体的な取組内容❹オープンネームでの地域外マッチングイベントですが、あえてオープンネームと記している意図をお伺いできればと思います。

副市長／最も期待する効果ですけれども、この事業承継支援は様々な形があります。実施

項目の❶❷ですが、2 代目以降の後継者候補のコミュニティづくりということで、全く第三者に買ってもらうということも、もちろん事業承継としてはあり得ますが、すでに2代目で決まっている人たちが、いかにスムーズに経営を引き継げるか、いかに現社長とコミュニケーションを上手くとって引き継いでいくか、ということがとても大切で、実はそれが簡単なようで、なかなかできていないことだということが、私たちの理解となっております。

よって、こういった自分が2代目だと分っている人たちが、先輩の承継者から聞いたり、仲間同士で聞きあったり、いかに引き継ぐべきかを学んでいく場、そういうコミュニティを作っていくということが、まず1つ大きな効果だというふうに思っています。結局、経営者は孤独なのだということです。

❸❹は、そこは毛色が違っていて、実名の公表しながらマッチングするという点です。こちらは、クローズの名前だとどんな事業所か分からなかったり、財務状況もなかなか分からなかったりして、何よりも経営者が第三者に引き継ぐときに、やはり経営者同士の相性というものも大切になってきます。これまでオープンネームというのは、事業承継ではタブーとまでは言われてなくても、なかなか難しいとされてきたところです。けれども、ここ近年、オープンネームでマッチングをしていくというのは、全国的にも出てきていて、庄内でも展開してみようと思い、それを地域内の事業者に譲り渡すということと、地域外の事業者の方に買ってもらうことと、その2点をやってみようというのが、今回の主な重点事項とするところです。

記者／引き継ぐ方を地域外に求めるので、今回、酒田市だけでなく鶴岡市とも連携されるという考えでよろしいでしょうか。

副市長／具体的な取り組み内容の❸「地域内の事業を譲り受けたい者」というのは、鶴岡市、酒田市という括りは1回取り除いて、庄内全体といったときに、庄内の方が庄内の事業を譲り受けるということ。庄内の事業者が庄内の事業者に譲り渡したいというマッチング。❹の地域外というのは、これは「渋谷キューズ」というところで行うのですが、庄内の事業者さんが都内のベンチャー企業とマッチングして、その人たちに買ってもらう、もしくは連携してもらうという目的になります。

記者／資料見ますと、今年度のモデル事業に採択されたということですが、これは酒田市と鶴岡市が連携した上で、モデル事業になったのでしょうか。それとも、これまでも事業承継支援は酒田市も鶴岡市も単独で行っているわけで、今回、一緒になったことでの採択ということでしょうか。

副市長／事業承継支援自体は、酒田市でも鶴岡市でも、それぞれ行政の役割として行ってきました。酒田市では「サンロク」で行ってきました。今回の中小企業基盤整備機構は経済産業省の外郭団体ですけれども、そちらの実証事業に応募させていただいて、それを酒田市と鶴岡市と一緒に応募させていただいて、採択されて実施をします。

オープンネームでのマッチングですとか、後継者のコミュニティを作るときに、あまり小さい規模であっても良くないものですから、それなら広域で行うべきだろうということ

で、今回連携をして、ちょうど良い実証事業があったので活用させていただいたという形です。

記者／そうすると、この補助事業自体が新しくて、その採択を受けるために鶴岡市と広域で連携して行うということでしょうか。この事業はずっと昔からあったわけではないのでしょうか。

副市長／制度がいつからあったかは今分かりませんが、近年出てきた制度です。自治体関与型とありますけれども、従来、商工会議所や金融機関などそういったところが事業承継の支援をするとなっていたところですが、自治体が関与してオープンネームで行うということは、信頼性のある組織がやらなければなりません。よって、そういったことと自治体が管理することがうまくマッチしていて、鶴岡市さんと一緒に考えた我々の事業プランが中小企業基盤整備機構に採択されました。他にも県内で上山市さんが同じく採択されています。東北ではたしか 4 件採択されていると思います。

記者／この自治体関与型というのは、今までも自治体が関与していたのかなと思っていたのですが、今までは商工会議所とかが関与していて、市としては関与していなかったということですか。

副市長／我々としては関与していました。国としても、自治体がもっと事業承継に関与して欲しいという思いがあって、政府が支援制度や実証事業について予算化してこの事業ができたということです。

記者／先ほど、県内では上山市ということでしたけれど、上山市も広域で行うのですか。

副市長／上山市はたしか単独です。

記者／広域じゃなくても採択にはなるわけですね。

副市長／そうだと思います。

記者／酒田市の場合は、今回鶴岡市と広域で連携しているということですね。

副市長／はい。

記者／事業承継の具体的な取組内容というところで、事業承継アンケートというのは 10 月から始まっているということですか。

副市長／はい、動き始めています。

記者／この取組内容の❶～❹の中で、新たな動きとして今回初めて行うのはどれになるのでしょうか。

副市長／酒田市としては❶❸❹です。❷はこれまでも行っておりました。

記者／今回、鶴岡市と酒田市で行うのが初めてということですね。広域で行うというのは、他の地区ではすでに行っているところはあって、という意味でよろしいでしょうか。

副市長／報告を見た中では初めてかもしれません。企業さんの個別の情報に関わる件なので、なかなか連携が難しいなという思いはあったのですけれど、今回はうまく理解が一致して、一緒にやりましょうというふうになったと思います。

記者／両市が取り組むきっかけは。

副市長／この実証事業があるというのが 1 つのきっかけでしたし、酒田市サンロクとして

は２年ぐらい前からこの❷の取り組みについてはやり始めていましたので、せっかくなので一緒にやりましょうと言いました。

記者／酒田がお声掛けをしたということですか。

産業振興主幹／日頃から、鶴岡市とは産業振興について情報交換しておりまして、そういった繋がりがあり、今回の経緯としては、酒田市から鶴岡市さんの方に一緒に中小企業基盤整備機構の費用補助の方に申請しましょうというお声掛けをさせていただいた形になります。

記者／今後３町、遊佐、庄内、三川にプラスして、大山商工会さんなどもあるかと思うのですが、他の商工会さんに声掛けするとかという話はございますか。

副市長／まず、この２市でしっかりやってみて、特にこのオープンネームのイベントなどは、どうなるか分からないところもありますので、しっかり内容を検証してみて、その上で３町さんにお声掛けするかどうかを決めていこうかなと思います。まずは規模の大きい２市でしっかりやっていこうという趣旨です。

■代表質問

１　パイレーツビル跡地ホテル整備計画の支援策について

記者／パイレーツビル跡地ホテル整備計画におきまして、市と業者の連携協定で具体的な進出支援策は決まったのでしょうか。進展状況についても分かれば教えてください。

市長／地域振興に向けた連携協定書というのもお配りしていると思いますが、そちらをぜひご覧ください。

これは去る７月 19 日に、サンフロンティアホテルマネジメント株式会社様の記者発表とともに、協定を締結したその連携協定書ですが、そちらを見ていただきますと、ホテル整備計画に関して支援するための協定ではないということですね。

第１条の目的をご覧いただきますと、「本協定は両者が相互に連携を図り、協働による活動を推進することによりまして、地域の振興及び活性化を推進することを目的とする」ということで、一緒に地域づくりをやっていこうというものです。このサンフロンティアホテルマネジメント株式会社様は、他の地域でもそういった実績があるということで、ぜひ酒田でも、ということで連携協定を結んだものでございます。

ですので、支援策というのはこの協定に基づいたものではないのですけれども、７月の記者発表の場で丸山前市長も、市としても何らかの進出支援策は必要と考えるというふうにおっしゃったというところで、私も同じように考えております。

地域振興の連携事業の具体的な内容につきましては、先方とまだ協議中のため、まだお知らせできるものがないのですけれども、これまでの培われてきたノウハウを生かした様々なアイデアをいただいているというふうに、事務方から聞いているところであります。

いずれにしましても、その際は、国の交付金の活用も想定しながら、効果的な連携事業が展開されることを期待するものであります。

進展状況につきましてもご質問がございました。記者発表の場で、「令和７年夏ごろの開

業を目指す」というお話ございました。それは変わっていないところでございます。令和7年夏ごろの開業を目指すということで進んでおります。

記者／2025年9月開業予定ということで、そのスケジュールは変わっていないですか。

市長／はい。

記者／着工の予定は市の方に情報入っていますか。

地域創生部長／まだ、正確な着工の日付というのは情報入っていませんけれども、工事期間等を考慮いたしますと、今年度中か或いは来年度早々とか、そういったところではないかというふうに思います。

2　クマ目撃増加の現状とＤＸ活用成果について

記者／県内のクマ目撃増加を受けた酒田市の現状とＤＸを活用した捕獲対策の成果についてお聞かせください。

市長／酒田市の目撃・出没状況についてまずお話をいたしますと、11月2日現在、本市内では189件の目撃・出没情報が寄せられております。これは、酒田市新市としてのデータを取り始めた平成18年度以降では、過去最高の件数となっております。なかでも、八幡、平田地区といった山間部を多く抱える地域での目撃情報が全体の約8割を占めております。

一方、近年は酒田市街地近郊での目撃情報も増えてきておりまして、6月7日には市街中心部に出没するといった過去に例のない事態となっております。

目撃情報が増加している要因としては、主食であるブナの実の凶作が影響しているものと考えられ、9月以降、里山に出没しているクマの多くが、栗や柿などに食害をもたらしております。

市としても、クマによる人的な被害を防止するため、市のホームページや広報などで、クマに遭遇しないための方法や出没を防ぐための方法などについて周知を行い、人家付近で目撃された場合には、防災行政無線や広報車を使用し、注意喚起を行っているところであります。

ＤＸを活用した捕獲対策の成果についてですが、本年度デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、持ち運び型の鳥獣わな監視装置を2台導入いたしました。これは、クマ捕獲用の箱わなを設置した際に、捕獲状況を24時間監視し、捕獲時に指定した電子メールに捕獲状況が送信される鳥獣対策のＩｏＴ（アイ・オー・ティー）サービスでありまして、9月から稼働しております。

本機器は、第1に、見回り時の隊員の安全確保、それから第2に、見回り労力の削減、こういった課題を同時に解消することができ、非常に有効なものと捉えております。

稼動実績としましては、本日までに4回設置しまして、4回とも捕獲に至っております。一定の効果が発揮されております。機器の台数に限りがあるため、全ての捕獲現場での活用は難しい状況ですが、今回の効果を踏まえ、来年度以降の体制について検討して参ります。

なお、鳥獣わな監視装置の概要につきましては、お手元に配布しております資料をご覧

ください。
記者／今お話に出た、鳥獣わな監視装置は 1 台当たりおいくらぐらいだったのかと、4 回設置の 4 回捕獲ができたということですけれども、何が捕獲できたのか教えていただけますか。
市長／1 点目ですけれども、1 台 235,400 円でございます。うち、通信料が年間で 19,800 円です。来年度以降はこの通信費のみの費用となります。捕獲したのはツキノワグマです。
記者／今値段の話もでたと思いますが、これは、見守り要員の安全やその労力を考えると、市としては、いい買い物というか 23 万円というのはどういう値段だとお考えですか。
市長／大変、費用対効果も良いのではないかというふうに私は感じております。
記者／こちらは全部で 2 台設置されているということですけれども、更に増やそうという計画はあったりしますか。
市長／来年度予算編成の全体を見なければ分りませんけれども、是非、もう少し増やしていければと今の時点では考えております。
記者／この鳥獣わな監視装置というのは、全県的に見て結構導入されているものなのか、その辺をお伺いできればと思います。
環境衛生課長／詳しい資料は持ち合わせていませんが、全国の市町村で、50 市町村ぐらいは導入されているということです。
記者／県内では？
環境衛生課長／県内では聞いていないです。
記者／今回、労力の削減が目的の 1 つということだったのですが、1 回の設置あたり、具体的にどれくらい見回りの数を減らせるものなのか、それが数値的に何かこれまでと今年度と比べられるものはありますか。
市民部長／見回りにつきましては、監視装置がなければ、朝晩少なくとも 2 回、見回りを行っております。ただ、この装置を設置して、センサーによって検知されればすでに設定したメールアドレスに通知されますので、少なくとも設置期間、わなにかかるまでの日数にもよりますけれども、回数としては少なくなります。
記者／装置なしの場合は、朝夕少なくとも 2 回見回りをしていて、ありの場合はその 2 回が不要になるということでしょうか。
市民部長／1 回は見回りをしているので、回数的には負担は減ります。通知がなくても 1 回は現場を確認しているところでございます。
記者／装置なしの場合は、少なくとも朝夕 2 回で、もし、場合によってはそれ以上対応することもあって、装置ありの場合は 1 日 1 回に抑えられるということでしょうか。
市民部長／場合によっては 1、2 回監視することもありますけれども、最低 1 回の見回りをさせていただいております。
記者／数字の確認だったのですが、2 台を 4 回ずつ設置したのですか。それとも 2 台で 4 回設置したのでしょうか。
市民部長／設置は 4 回ということになります。

記者／2 台をそれぞれ 2 回ずつ使ったということですか。
市民部長／そうです。
記者／今後、どういったところに、この鳥獣わな監視装置を増やしていきたいですか。
市長／全体の予算を見てですが、今回捕獲はされましたが、改めて効果検証した上で設置するのかどうか検討したいということでございます。市内各地域に設置できれば理想的かなと考えております。
記者／目撃情報が 189 件ということですが、これは人身被害というのはあるのでしょうか。189 件というのに対して、平成 18 年度以降の最多というのが何件なのでしょうか。
市長／今年度人的な被害はございません。今年度は目撃・出没情報 189 件ですけれども、平成 18 年以降で過去最多でございますが、2 番目に多い年度は、令和 2 年度と平成 18 年度の 122 件でございます。
記者／ツキノワグマの捕獲数というのは、全部で何件でしょうか。
市長／酒田市のクマの捕獲頭数でございますが、令和 5 年 9 月 30 日現在で 22 頭になっております。
記者／これは最も多いのでしょうか。
市長／過去 5 年間においては、令和 2 年度の 33 頭が、捕獲頭数としては一番多いという数になっております。
記者／先ほどの鳥獣わな監視装置では、4 頭捕獲されたとのことでよろしいでしょうか。
市長／そうです。
市長公室長／先ほど、わなの見回りの説明で一部訂正がありましたので、環境衛生課長の方から報告させていただきます。
環境衛生課長／これまで、わなを設置すると、クマが捕獲されているかいないか、エサの状況が大丈夫かということで、朝夕 1 日 2 回、それを毎日、猟友会の方が見回りをしておりました。現在は、わなセンサー（鳥獣わな監視装置）を設置したため、1 日に朝夕見回りして、翌日は見回りをしないというような、隔日で見回りをする体制をとっております。
　今のところ、わなセンサー（鳥獣わな監視装置）のその効果を検証しながら、ということになるのですが、今後、センサーが作動するまで放置しても大丈夫なのかなどの検証をし、猟友会の方と相談しながら、見回りの状況も確認しながら検討していきたいということで考えております。

■フリー質問

1　酒田の花火全国二尺玉花火大会について

記者／先日の酒田市議会で、酒田の花火の 1,900 万円の損失補填について、酒田市が公金を使って補填するという方向になったわけですけれども、責任という部分でいうと、お詫びの文章とかは書いてはありますが、誰に責任があって責任は誰が取ったのか、はっきりよく分からない。ですから、その責任の所在がどこにあったのか、それから、その責任はどう取るのか、どう考えているのでしょうか。

市長／責任の所在はといえば、実行委員会の組織の一番上にあります大会会長が責任者だというふうに考えております。私が今、酒田の花火の大会会長ですので、私の責任の取り方としましては、議会とお約束しました通り、3 つの条件をしっかり次年度に向けて実行していくという責任の取り方をしたいというふうに考えております。また、市民にもきちんと説明するようにということでございましたので、まずは 11 月 1 日号の広報で説明をさせていただいたということでございます。

記者／ただ、広報を見ると、誰が謝っているのかというのがよく分からないです。名前も書いてないし、誰が謝っているのでしょうか、という声を聞くのですが、それはあえてそういうふうにぼかしたのでしょうか。

市長／いいえ、そういう意図はありません。当然、大会会長が責任者です。ただ、私の責任の取り方、どうやって責任を取るのだというふうに問われれば、次年度は市民代表である議会の皆様とお約束した通りに実行して、もう二度とこういうことのないようにしていく、そういう責任のとり方しか考えつかなかったものですから、そのようにさせていただきました。

記者／はい、分かりました。